どうぞ安らかにお眠りください 諫早の地に悲願の慰霊の碑を建立

～長崎被災協・被爆二世の会・諫早の活動～

75 年前の 8 月 9 日、長崎市内からの救護列車は諫早駅で多くの被爆者を降ろしました。そのうち既に車内で亡くなっている方、救護の甲斐もなく息を引き取る方など 400～500 人の方々は天満町の旧火葬場で荼毘に付されました。さぞかし無念だったことと思います。また、救護被爆者となられた方も多く発生しました。

2020 年 8 月 8 日、諫早市天満町の百日紅公園にその「慰霊の碑」が建立されました。被爆から 75 年の時を経て、市内外の被爆者と被爆二世、市民の募金で実現したものです。今後も会のメンバーは碑の維持活動、公園の清掃活動を続けて行きます。

例年、原爆パネル展や被爆体験朗読などを含めた平和コンサートを開催していますが、コロナ禍の中、今年は中止となりました。しかしながら、念願の慰霊碑を建てられたことでまた一段と、平和活動の重みを認識しています。

※救護被爆者…被爆者の救援活動に携わる中で、服などについた残留放射性物質を吸い込んだりして体内被ばくした人のこと。

諫早市天満町の百日紅公園に建立された慰霊の碑（2020.8.8 建立）

「慰霊の碑」に刻まれている碑文

諫早市天満町にある百日紅公園は、旧市営火葬場として多くの市民の御霊を送り出した場所である。

長崎原爆投下直後には、原爆により亡くなられた方の多くの遺体がここの火葬場へ運び込まれて来たが、遺体の数が多過ぎて火葬の作業が追い付かず、警防分団が招集され、火葬場の裏の畑に数か所の仮火葬の穴を掘り、分団が交替で火葬作業をおこない、婦人会も握り飯の炊き出しなどをおこなっていた。

運ばれ並べられた遺体のいたみは酷く、作業にあたった方々は握り飯も喉を通らないほどの、想像を絶する悲惨な状況であった。

原爆の犠牲となり、この地で火葬された数は、大体 4 百体から 5 百体であったと言われている。

この史実を後世に伝え、非核平和と御霊の安らかならんことを願い、ここに慰霊の碑を建立するものである。

令和 2 年 8 月 9 日

一般財団法人 長崎原爆被災者協議会

諫早市原爆被災者協議会